

(別紙様式4)

### 提出された意見等の概要とこれに対する考え方

案 件 名 : 兵庫県自殺対策計画(中間見直し)案  
意見募集期間 : 令和5年3月6日～令和5年3月27日  
意見等の提出件数 : 13件(5人)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
第1章 4 目標	・子どもや女性の自殺者を減らすことができたとしても、全体として計画どおりの数値になるか疑問だが、県の自殺対策の施策がこんなにあるとは正直驚いた。これら施策により、目標値に近づくことを大いに期待する。	1	【今後の取組の参考】 ・今後とも施策を効果的に進めながら、必要に応じて新しい対策も検討し、生きることの包括的な支援としての自殺対策を総合的に推進してまいります。
第4章 1 相談体制の充実強化	・当人は友人や家族にも異変を知らせないままに亡くなってしまふことがある。彼らの悩みを聞くことができる選択肢が多いに越したことはないので、相談窓口の充実に対する姿勢は十分評価できる。	1	【本文の趣旨に一致】 ・悩みや不安を抱えた方が、「相談を希望しているにも関わらず、相談窓口を知らないまま相談できずに亡くなる」ことがなくなるよう、引き続き相談窓口の周知も含めて取り組んでまいります。
第4章 2 地域における支援体制の推進	・自殺の理由は個別的なものであることから、特別な対策よりも日々の人と人とのコミュニケーションが何よりも大切。 ・本音で語り合える第三者との「一対一のやりとり」「心の対話」ができることが重要。同じような悩みを持っている人がいて、それが自然なことであると認識できれば。	2	【意見を反映】 ・県としても、悩みや不安を抱える方が誰かに相談でき、また皆が悩みや不安を抱える方に気づき、温かく受け止められることの重要性を認識しています。 ・「(3)ゲートキーパーやいのちを支える専門的人材等の養成」において、「身近な人と人とのつながりを生かし、」を追記しました。
	・当事者が究極の選択に至るまでの継続的なサポートも必要であるため、ゲートキーパーを育てようとする姿勢も大切。	1	【本文の趣旨に一致】 ・「(3)ゲートキーパーやいのちを支える専門的人材等の養成」における取組を推進します。
第4章 4 自殺のハイリスク要因を抱える人への支援の強化	・根強くある精神科への偏見が、早期受診を妨げていると考える。心を病んだ人自身や周りの人の理解が進むよう「精神科を受診することは悪いことではない」という啓発を行なってほしい。	1	【意見を反映】 ・県としても偏見をなくすことは重要であると考えています。「(1)精神疾患に関わる支援体制の充実」を中心として、早期受診・治療、偏見をなくすための取組を推進します。 ・「2(1)自殺予防に対する理解の促進」においても、「早期受診の必要性」の普及に関する記載を追記しました。

<p>第4章 5 子ども・若者の自殺対策の推進</p>	<p>・人のつながりをしっかりと築くことができるような人間へ導く教育が大切。 ・いのちの大切さやSOSの出し方教育、道徳教育などをおして、自分を大切にすること、まわりに優しくすることを身につけた大人が増えると、自殺も減っていくのでは。</p>	2	<p>【本文の趣旨に一致】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県としても、子どもの頃からのいのちの大切さや思いやりの心等を育てる教育について、重要なものと認識しています。</li> <li>・「(1)命の大切さ・尊さを実感させる教育・学習の推進」「(2)教育・相談支援体制の充実」における取組を中心に推進します。</li> </ul>
	<p>・子どもの頃の育ちの環境が、「自殺を選ばない大人」をつくるために大切。虐待や暴力の中で育つことがないよう、児童虐待防止やいじめ対策もとても大切。</p>	1	<p>【本文の趣旨に一致】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(3)いじめによる子どもの自殺の予防」「(4)家庭における課題を抱える子どもへの支援の推進」における取組を中心に推進します。</li> </ul>
	<p>・子ども・若者の自殺の背景には発達障害があることがよく指摘されるが、知的障害のない発達障害の子どもが、周囲からの疎外感とコミュニケーションの困難を感じ始めるのは小学校高学年くらいからなので、SOSの出し方教育は小学校から推進していただきたい。</p>	1	<p>【本文の趣旨に一致】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(1)命の大切さ・尊さを実感させる教育・学習の推進」「(2)教育・相談支援体制の充実」の取組を中心に推進します。</li> <li>・SOSの出し方等について、小学生に向けては「兵庫型『体験教育』」「道徳教育」「人権教育」等の中で必要な教育を行ってまいります。中学生・高校生に向けては、発達段階を考慮し、「心の教育総合センター『自殺予防に生かせる教育プログラム』」等を活用してまいります。</li> </ul>
	<p>・スクールカウンセラー（SC）の配置推進、引き続きお願いしたい。ただ、SCに子どもが相談した先において、困難事例の対応等について、連携やスーパーバイズの仕組みはできているのか。名古屋市のように、SCのマネジメントも担当いただけるような精神科学校医の配置を検討いただきたい。</p>	1	<p>【今後の取組の参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教育事務所に設置する学校問題サポートチームのスクールカウンセラーをスーパーバイザーとして活用します。</li> <li>・スクールカウンセラー対象の研修会を引き続き実施していきます。</li> </ul>
<p>第4章 8 女性の自殺対策の推進</p>	<p>・妊産婦の支援が挙げられており、大変期待しているが、事業としては妊産婦本人への相談や指導が中心となっている。妊産婦の自殺事例のうち、妊娠中は39%、産後は50%が、産後うつ病等の精神疾患を持っていたとの報告もあるので、地域の精神科医に対し、妊産婦の薬物療法に関する専門的な研修が必要ではないか。</p>	1	<p>【今後の取組の参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦へのメンタルヘルス支援については重要なものと考えています。各市町においても産後うつ等への対応として、産婦健康診査事業を実施しており、必要に応じ精神科の受診勧奨等の取組に加え、精神科医を含む医師等への研修を行っています。</li> <li>・ご提案いただいた点については、妊産婦支援における課題と考えておりますので、今後の参考にさせていただきます。</li> </ul>
<p>第4章 9 自死遺族等遺された人への支援の充実</p>	<p>・自殺した人への偏見をなくすための取組、自死遺族への支援を行うことも大切。</p>	1	<p>【本文の趣旨に一致】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(1)自死遺族に対する理解の促進」「(2)家庭・学校・職場等での事後対応への支援」「(3)遺族支援団体等への支援」を中心に、多様な遺族心理を抱える自死遺族への理解を促すための取組や支援策を推進します。</li> </ul>